





奈良県 醸造用ブドウ栽培暦（品種は‘メルロー’又は‘シャルドネ’、標高250~350m程度での露地垣根仕立て栽培を前提としています。）

時期	休眠期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	収穫後
生育ステージ		← 発芽期 →		← 開花期 →			← 収穫期 →	
主な管理作業	剪定・施肥		芽かき	誘引	摘心、副梢整理		収穫	
	剪定時には病枝を除去する 施肥量は、成木(5年生以上)では窒素9、リン酸6、カリ9(kg/10a)とし、若木(4~5年生)では半分、幼木(1~3年生)では1/3とする		芽かきは樹勢が弱い場合には萌芽後すぐに実施し、強い場合には実施を遅らせる		摘心後、副梢が多く発生するので、基部の葉を1~2枚残して除去する	7月中旬以降、鳥害が発生するので、防鳥網を設置する	酸度を測定し、0.8以下を目安に収穫する。	
病虫害防除 (露地栽培)	[発芽前] [越冬病虫害] 石灰硫黄合剤 7~10倍	[萌芽直後] [べと病、黒とう病] デランフロアブル 1000倍 [4月下旬] [べと病、黒とう病] キノンドーフロアブル 600倍	[5月上旬] [べと病、黒とう病] ドーシャスフロアブル 2000倍 [5月中~下旬] [べと病、黒とう病] アリエッティC水和剤 400~800倍 [コガネムシ類] ダントツ水溶剤 2000~4000倍	[6月上旬] [べと病、黒とう病] ジマンダイセン水和剤 1000倍 [6月中~下旬] [べと病、黒とう病] アミスター10フロアブル 1000倍 [コガネムシ類、アザミウマ類] モスピラン顆粒水溶剤 2000~4000倍	[7月中旬] [黒とう病、晚腐病] フルーツセイバー 1500倍 [コガネムシ類、ハダニ類] コテツフロアブル 2000倍	[8月上~中旬] [べと病] レーバスフロアブル 2000~3000倍	[収穫後] [べと病、黒とう病] ICボルドー66D 50倍	
		べと病は発生前の予防防除が重要なので発芽期からの早期防除を徹底する		べと病の初期発生を認めた場合はオロンディスウルトラSC 2000倍を散布する ただし、耐性菌防止のため年1回の使用に留める コガネムシ類は捕殺も併用する		収穫直前の防除は収穫前使用期限に注意すること		
						   		

* 本栽培暦は、2019~2023年度に実施した栽培試験に基づき作成しています。

* 農薬の登録情報は2024年2月19日時点のものですので、**農薬使用前には必ずラベルで最新の登録情報をご確認下さい。**